第1回能登町総合計画審議会 議事録

1 日時 令和7年7月1日(火) 13:30～14:30

2 場所 能登町役場1階 第1・第2研修室

3 出席者

<会長・職務代理>

会長	梅 佐紀子	教育委員会
職務代理	寺口 美枝子	防災士会

<委員>

第1号委員 (学識経験を有する者)	小野田 泰明	東北大学大学院 教授
	後藤 美佳	経営・財務アドバイザー (DX)
第2号委員 (各種団体の代表者)	坂上 信彦	町会区長会連合会
	重野 さとみ	婦人団体協議会
	新谷 伸一	商工会
	中田 亨	県漁業協同組合
	中野 文彦	興能信用金庫
	浜中 勝則	能登農業協同組合
	福池 功	P T A連合会
	水上 直彦	能登町介護認定審査会
	水元 圭介	観光協会
第3号委員 (その他町長が必要と認める者)	森 進之介	定住促進協議会
	橋本 こずえ	公募

<町出席者>

町長	吉田 義法
----	-------

<事務局>

企画財政課長	吉村 泰輝
企画財政課長補佐	本井 敬
企画財政課主幹	下谷内 奈緒
株式会社さとゆめ (コンサルタント)	安藤 淳平
	相原 朋世
	佐藤 春華

4 会議次第

- (1) 委嘱状の交付について
- (2) 委員紹介
- (3) 議題
 - i 会長選出
 - ii 能登町第三次総合計画素案の諮問
 - iii 能登町第三次総合計画策定方針について
 - iv 審議会の今後の進め方について
- (4) その他
 - i 次回の予定

5 配布資料

次第

委員名簿

資料 1：能登町総合計画審議会条例

資料 2：能登町第三次総合計画策定方針

資料 3：総合計画審議会の開催予定及び進め方

6 議事要旨

(1) 委嘱状の交付について

【事務局（能登町）】第 1 回能登町総合計画審議会の開催に先立ち、総合計画審議会委員の委嘱状交付式を行います。吉田町長より総合計画審議会委員へ委嘱状の交付をさせていただきます。なお、オンライン出席の小野田委員については、委任状の交付を省略させていただきます、後ほど郵送させていただきます。

吉田町長より委嘱状を委員に交付

【事務局（能登町）】以上をもって委嘱状交付式を終了いたします。なお、2号委員の中田委員については、委員就任の承諾はいただいておりますが、所用により欠席の連絡があったことをご報告いたします。続いて、吉田町長よりご挨拶をお願いいたします。

【吉田町長】皆さんこんにちは。この度は大変お忙しい中、総合計画審議会にご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。ただいま委嘱状をお渡しさせていただきました。委員に快諾いただきましたことを、重ねてお礼を申し上げます。どうもありがとうございます。能登町総合計画は、令和 8 年度から今後 10 年間の方向性を示す本町の最上位計画であり、今年度中に取りまとめる予定です。委員の皆様は、高い見識をお持ちの方々であり、何より能登町に愛着をお持ちの方であります。2年間どうぞよろしく願い申し上げます。

さて時代が大きく動いております。昨年度、能登町で生まれた子供はわずか 31 人です。さらに年間 600 人を超える人が能登町を離れております。

危機的ではなくこれはもう危機と言っても過言ではございません。異常気象も続いております。AI、DX など技術革新も進み、産業・社会構造も激変しております。良くも悪くも、昭和の成功モデルの常識は通じなくなってきております。私としては当町のこれまでの 20 年間の成果をしっかりと引き続き、持続可能なまちの実現に取り組んでまいりたいと考えております。また、令和 6 年能登半島地震、そして奥能登豪雨という未曾有の大災害により、町民の皆様が生活が一変し、復旧復興という大きな課題に直面しております。一刻も早く町民の皆様と力を合わせ、安心した生活ができるまちづくり、誇りの持てる郷土、能登町を再生したいと考えております。

そのためにも、この審議会の中では、ぜひとも専門的な見地また町民目線で忌憚なくご意見を出していただき、新総合計画を作り上げたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【事務局（能登町）】ただいまより、第 1 回能登町総合計画審議会を開催します。まず初めに配布資料の確認を行います。

事務局より配布資料の確認

【事務局（能登町）】続いて、本審議会の位置付けおよび目的について説明させていただきます。まず、資料1「能登町総合計画審議会条例」をご覧ください。

当該条例のとおり、本審議会は、能登町総合計画に関し、町長の諮問に応じて必要な事項を調査・審議し、町長に答申することを目的として設置されたものです。委員の定数は15名以内、任期は2年と定められております。また、審議会には会長および職務代理者を置き、これを委員の互選によって選出することとしております。

続いて、会議の進行について説明いたします。議事進行を担う議長については、条例第6条第1項の規定に基づき、会長がその職務を行うこととなっております。ただし、会長が選出されるまでの間は、引き続き事務局が進行を担当いたします。

次に、会議の開催要件について報告申し上げます。条例第6条第2項において、審議会の開催には委員の過半数の出席が必要とされております。本日は委員15名中14名の出席となっておりますので、会議の成立要件を満たしていることを報告いたします。

なお、本会議においては個人情報その他の不開示情報は含まれていないため、終了後に会議録を作成し、公開する予定であります。ご了解の程よろしくお願いたします。

(2) 委員紹介

参加者及び事務局職員による挨拶（省略）

(3) 議題

i 会長選出

【事務局（能登町）】それでは、本日の議題に入ります。議題1「会長及び職務代理者の選出」について、審議会条例第5条第1項により、会長は委員の互選で定めることとなっております。

まず、会長選出について自薦や推薦があればお願いたします。なければ、事務局から案を提示させていただきたいと思っておりますがどうでしょうか。

【委員一同】異議なし。

【事務局（能登町）】それでは、梅委員を会長にお願いしたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

（承認の拍手）

【事務局（能登町）】それでは、梅委員より改めてご挨拶をお願いします。

【梅会長】ただいま皆様から会長を仰せつかった梅と申します。大変不安もありますが、皆様の自己紹介を聞き、頼もしく感じております。皆様の協力を得て、何とか務めたいと思っております。会長として、より良い総合計画の作成に向けて、活発な意見が出るよう議論の場づくりに努めたいと思っております。

【事務局（能登町）】以降の進行は梅会長にお願いいたします。

【梅会長】それでは、よろしくお願いたします。まず、職務代理者の選定を行いたいと思っております。職務代理者については、会長が指名することとされているため、私から寺口委員にお願いしたいと考えております。寺口委員、よろしいでしょうか。

【寺口委員】はい。

【梅会長】 それでは、寺口委員を職務代理者に選出したいと思います。

ii 第三次能登町総合計画の諮問

【梅会長】 続いて、議題2「能登町第三次総合計画素案の諮問」に入ります。まず、事務局より説明をお願いいたします。

【事務局（能登町）】 本町では、2016年度から2025年度までを計画期間とする「能登町第二次総合計画」を策定し、「人をつなぎ、地域をつなぎ、未来（あす）へつなぐまちづくり」を基本目標に、各種のまちづくり施策を進めてきました。この「第二次総合計画」の計画期間が令和7年度末で終了することから、能登町が目指す将来像や、まちづくりの基本方針を示し、社会情勢の変化に対応した新たなまちづくりを推進するための指針として、「第三次総合計画」の基本構想及び前期基本計画の素案を町として提示いたします。本日はその素案について、当審議会にてご審議いただくものといたします。

【事務局（能登町）】 それでは、吉田町長より、能登町総合計画について当審議会への諮問書をお渡ししていただきたいと思います。

吉田町長より「能登町第三次総合計画素案」諮問書を梅会長に提出

吉田町長は次の公務のため、諮問書を提出後、退席

iii 能登町第三次総合計画策定方針について

【梅会長】 続いて、議題3「能登町第三次総合計画策定方針」について、事務局よりご説明をお願いいたします。

事務局（能登町）より、資料2「能登町第三次総合計画策定方針」の説明を行う

【梅会長】 我々審議会として、何を行うのかという点について、ただいまご説明がございました。必ずしもこの形でなければならないというものではありませんが、町から示される基本構想と基本計画に対し、審議会として意見を述べ、それを町長へ答申することが本審議会の役割であります。この点について、委員の皆様から確認したいことや、説明の中で不明な点があれば、今のうちにご確認いただきたいと思います。ご意見、ご質問をお願いいたします。

【A委員】 10年間の総合計画と言いながら、5年・5年で区切られる、ということかと思えます。今も大体5年くらいで状況が変化していたように思いますが、今回の計画は、10年のものができるのか、それとも、5年間のものができる、というイメージになるのでしょうか。

【事務局（さとゆめ）】 お手元にある現行の「第二次総合計画」をご覧ください。冒頭に「基本構想」という章がありますが、これは町の将来像、いわば「町がこうあったら良い」という理想の姿を示したものです。企業でいうビジョンに相当するものだと思っていただければ。この将来像や理念は、基本的には変わるものではなく、10年間継続して目指していくものであります。

一方、第3章以降に記載されている「基本計画」では、その将来像に向けて、町としてどのような施策や事業を行っていくかが示されており、この基本計画については、前期の5年分が冊子にまとまっており、後期5年については前期の終了1年前ほどから策定を開始します。社会情勢の変化等を踏まえて施策や事業を見直し、後期計画を新たに作成していく流れであります。そのため、後期分として別冊が作成されるというイメージを持っていただければと思います。以上の説明でいかがでしょうか。

【事務局（能登町）】これまでの第一次、第二次と同様に、理念や将来像については継承していく。ただ、10年という期間はやはり長く、時代とのズレが生じやすいため、最近では5年ごとに基本計画を見直す自治体が増えています。能登町においても、そうした方式を取り入れていく予定です。

また、今回の総合計画には「総合戦略」も包含して策定する方針です。総合戦略はもともと5年単位で策定されるものであり、前期の基本計画と総合戦略がリンクするかたちで構成されています。審議会においても、そうした進行管理を意識していただきながら、5年・5年の区切りで進めていければと考えております。

【A委員】分かりました。

【B委員】この「第二次総合計画」の冊子についてですが、能登町では2025年度で一応終了ということで理解しています。先ほどの説明では、将来像など大きな枠は変わらないが、計画などの内容についてはわからない点もあります。そこで伺いたいのですが、この第二次総合計画においては計画通りに進捗してきたのか、それとも実行が難しかったのか。結果としてどうであったのか、もし数値などで分かることがあれば教えていただきたい。

【事務局（能登町）】ご質問についてお答えいたします。第二次総合計画をご覧いただければわかるとおり、当時はKPI（重要業績評価指標）や成果指標のような定量的な目標は設定されておらず、指標に基づく進捗管理や評価を行う計画にはなっていません。10年前は、それでも良かったのですが、現在では、成果指標に基づいて進捗や成果を検証することが求められています。そうした中で、第二次計画では、何を行ったかについての説明は可能ですが、どこまで達成できたかといった定量的評価を下すことが難しい状況であります。

加えて、令和6年の能登半島地震という未曾有の災害も影響し、計画通りに進行していない現状もあります。そのため本来であれば、第二次総合計画を総括し、その反省を踏まえて第三次総合計画に活かすべきところではありますが、成果指標が存在しない計画であることから、その検証が困難であり、現状では十分な総括ができていない。大変申し訳なく思っております。

【B委員】理解しました。

【事務局（能登町）】本来であれば、B委員のおっしゃるように、数値を用いて町の将来像がどこまで実現されたかを「見える化」してお示しすべきであったと考えています。しかし、先ほど申し上げたように、第二次総合計画ではKPI等が設計されておらず、実態として定量評価が難しい。

一方で、これから策定する第三次計画では、当然ながらKPI等を設け、成果の「見える化」をしっかり行う予定です。

【事務局（さとゆめ）】また、今後について補足させていただくと、本審議会においては継続的に進捗状況をご報告する機会を設けたいと考えています。策定に係る進捗情報や、現時点での課題などについて、定期的に共有できるよう体制を整えていくつもりです。

【B委員】分かりました。

【C委員】DXの観点から本審議会に参加していますが、いくつか前提を確認させていただきます。「5. 計画全体の構成（体系イメージ）」の項で、目標値の体系について言及がありました。これはKPIやKGIに該当すると思うが、国の潮流ではEBPM（証拠に基づく政策立案）が推進されており、毎年度の見直しも求められています。その中で、基本計画のスパンを5年とする理由についてお伺いさせていただいてもよろしいでしょうか。

【事務局（さとゆめ）】EBPMとは、単なる思いつきや印象に基づく施策ではなく、きちんと根拠に基づいた政策を立案し、それを実行・検証することが求められる手法であります。たとえば、「なんとなく事業者が減っているから商品券を配ろう」といった対応ではなく、統計的・客観的な根拠をもとに施策を構築することが重視されています。

その上で、事業レベルについては、毎年度のローリング（見直し）を行っていきます。一方、施策レベル、すなわち全体の基本計画については、現時点では5年のスパンを設けて策定する方針です。

【C委員】もう一点よろしいでしょうか。策定体制に関してですが、審議会の委員の皆様は地域への愛着を持ち、非常に心強く思った一方で、企画財政課がすべての調整や説明、町民参加の部分も含めてリーダーシップを取るのかという点について、確認させていただけますか。

【事務局（能登町）】基本的には事務局である企画財政課が中心となって進めます。もちろん、各課と連携しながら意見を吸い上げ、審議会の皆様にお伝えします。また、皆様からのご意見について、その場で回答が難しいものについては一度持ち帰り、関係課に確認の上で後日回答する形を取る予定です。

全ての関係部署が毎回出席するのは現実的に難しいため、事前に資料を配布することで、あらかじめ質問をお寄せいただければ、関係課に確認したうえで会議に臨むことも可能です。皆様のご意見を伺いながら、柔軟に対応していきたいと考えております。

【C委員】質問の意図としては、町内調整や外部との調整も含め、広範な調整業務が求められると理解しております。その中で、今回の総合計画策定については、さとゆめが実際の計画策定に携わると認識していますが、町民参加のワークショップ、教育的な取り組みなども一緒に担当されるのか、それとも別となるのかを確認させていただけますか。

【事務局（さとゆめ）】そういった町内の調整や町民参加のプログラムなども、こちらで一緒に進める予定です。

【C委員】分かりました。ちなみに、さとゆめは本件についていつまで関わる予定なのか。

【事務局（さとゆめ）】基本的には契約期間である今年度末までの関与を予定しており、この策定業務の完了までを支援範囲としています。

【C委員】はい、ありがとうございます。質問は以上です。

【D委員】非常に基本的なことで恐縮ですが、計画を立てる上で、将来推計ができていないとそもそも難しいのではないかと考えています。その点について、例えば既に公表されている推計値などがあれば教えていただきたいです。

もう一点は、KGIの話に関連して、基本構想で示されている内容を最終的なアウトカムとして、どのように捉えているのかについて伺いたい。最終的なアウトカムが定まらないと、各施策分野のKGIの設定も難しく、ひいてはKPIの設定にも支障が出ると思われまます。そのため、現時点でお考えがあれば教えていただきたいです。

【事務局（能登町）】ご指摘のとおり、これは戦略にも関係する内容であります。まずは「人口減少をどの水準に抑えるのか」という目標設定が出発点になると考えています。現在、配布資料2「能登町第三次総合計画策定方針」の9ページの「7. 策定スケジュール」内「(4) 将来人口の推計」に記載のとおり、将来人口の推計作業はさとゆめをお願いしています。この推計には、震災の影響を踏まえた独自推計と、国立社会保障・人口問題研究所（社人研）が示している推計の2種類があります。社人研が示した2050年度の人口推計は、震災の影響前の前提に基づいたものであり、そこまで人口を回復させることは非常に困難であるため、現実的には下方修正せざるを得ない。その上で、どこまでを現実的な目標値とするかを、今後すり合わせていく予定です。例えば、子育て支援に注力して出生数を増やす施策を採るのか、あるいは移住者を積極的に受け入れる施策に重点を置くのかなど、各種施策の方向性を議論する必要があります。そのあたりは現在進行中のワークショップや、定住促進協議会の意見も踏まえて検討していきます。

社人研が示す数値を維持、あるいはそれを上回る人口を目指すという方向性を念頭に、施策の設計を進めていく方針であります。さとゆめからも補足をお願いします。

【事務局（さとゆめ）】おおむねお話いただいたとおりです。まず、震災の影響を受けた現状を把握したうえで、総合戦略の中での人口推計を見直す作業を進めているところです。その上で、第三次総合計画で新たに打ち出す施策内容を加味しながら、現実的な「目標人口」を設定していくことになる。この目標値は、今後この審議会において委員の皆様にお示しし、ご議論いただく中で確定していきたいと考えています。

【D委員】先ほど「価値」や「価値観」といった話題が出ていましたが、価値の創造をどうやってしていくのか、特に小さなスケールをもって物事を整理し、優先順位をつけていく必要があると思います。そういった中でどこに価値を置くのか、これが従来の価値観なのか、新しい価値観に基づくものなのかは分からないが、どのようなお考えであったのかを伺いたかった次第であります。

【梅会長】他によろしいでしょうか。

【E委員】ひと通り資料を拝見しましたが、分からないことがあったので教えていただきたいです。私は一般公募で委員に応募した立場ですが、そもそも能登町民のうち、どれくらいの方がこの総合計画や復興計画の存在を知っているのか、伺いたいです。

また、第一次計画で掲げられていた「一歩前に進むまちづくり」という将来像について、それが実際にどの程度前進したのか。達成感というより、どれほど前に進めたのか、簡単な説明でもいいので知りたいです。さらに、第二次計画の「ひとをつなぎ、地域をつなぎ、未来へつなぐ」という文言について、具体的にどのように「ひとをつなぎ」、「地域をつなぎ」、そして「未来へ」つなげたのか、という点にも疑問を感じています。

最後に、復興計画では「次世代が希望を持てる持続可能なまち」という文言が使われていますが、今現在を生きる高齢者などにとっての希望や未来はどうなるのかという点についても、ご説明いただければと思います。

【事務局（能登町）】ご質問のとおり、第一次、第二次の総合計画にはそれぞれ将来像が示されていましたが、それらの内容を町民の多くが把握していたかということ、現状では難しい面があると認識しています。役場職員であれば見たことがあるが、町民の皆さんに広く周知されていたとは言いがたい。

そのため、第三次総合計画では町民の皆さんに手に取って読んでいただけるような計画を目指しているところです。町民の皆様にも広く知っていただけるよう、今後は広報や周知の方法も含めて検討を進めていきたい。

なお、ご質問いただいた件について、すぐに明確な数字や成果をお示しする準備が整っていないため、後日、あらためて整理した上で回答させていただきたい。

【E委員】分かりました。

【事務局（能登町）】復興計画の文言に関するご指摘いただきましたが、こちらの意図としては今現在この町に暮らす皆さんも含めて、町全体としての復興と将来像を描いているものであり、「次世代だけに希望を託す」という趣旨ではありません。復興計画の文言は、現状を踏まえて作成したものであり、町として今いる住民をなおざりにする意図ではありません。

【E委員】意味としては理解していますが、その表現が誤解を招くのではないかと感じました。特に高齢者の方々が「自分たちはもう対象外なのでは」と受け取ってしまう恐れがあると思う。

【事務局（能登町）】復興計画もしっかり現状を把握した上で文言を作成しているため、当然今いる方をなおざりにして次世代へというものではありません。ご理解をお願いいたします。

【事務局（さとゆめ）】一般的に町民が総合計画の存在を知っているかということ、ほとんどの方は知らないのが実情であるように思う。実際、審議会やワークショップなどに参加したことがある方でないと、計画の存在や中身まで知っている方は少ない。他の地域を見てきた感覚値だと、内容まで目を通したことがある方は1割にも満たないように思われます。

ただし、総合計画は行政の方向性や施策の方針を示す重要なものであるため、策定にあたっては市民の声を反映することが重要であるし、策定後の広報・PR活動も同じように重要であります。今回の第三次総合計画では、策定と同時に「知らせること」「共有すること」にも力を入れていければと考えています。

【事務局（能登町）】今回の計画は策定段階から町の広報にも掲載し、広く町民に知っていただけるよう取り組んでいく方針であります。

【梅会長】他にありますか。

【F委員】この総合計画のほかに、復興計画や総合戦略があると思うが、正直、どれがどれなのか分からなくなってきました。それぞれの関係性はどうなっているのか。対のような

関係なのか、どれかが上位にあるのか。復興計画は9年、総合戦略は5年、総合計画は10年という期間になっていて、これらが並行して進む中で、どう調整していくのか。

また、策定にあたって相反するような内容が出た場合にどう対応するのか。どの計画が最も優先されるのかによって、そのあたりの判断も変わると思う。町として、どれを最優先にしているのかがあれば教えていただきたい。

【事務局（能登町）】優先順位でいうとすべてが最優先ではあるが、位置づけとしては総合計画が最上位計画であることは間違いない。総合計画より上の計画はない。町の目指す姿やあり方を示すのが総合計画であります。

ただし、現時点での優先順位で言えば、やはり復興・復旧が最優先となります。ただ、復興だけをやっていけばいいということではなく、未来への投資も同時に進めていく必要があります。例えば教育など、復興計画には盛り込まれにくい分野も、総合計画では包括的に扱うことができます。そういった意味でも、いろいろな立場の方々に参画いただくことが重要になってきます。復興計画は昨年度に策定されたばかりということもあり、当面は総合計画と並行して進めていきます。ただし、将来的には進行管理も含めて総合計画に一本化していく想定です。繰り返しになるが、最上位計画は総合計画、しかし今は復興計画と並列で取り組んでいるという位置づけで考えております。

【F委員】はい。

【事務局（能登町）】本審議会委員の中には、F委員のように復興計画の委員を兼任されている方も多くおられる。今は復興計画と総合計画を同じ並びという形で考えております。

【F委員】それなら、内容的に相反することはないということでしょうか。

【事務局（能登町）】基本的に相反することはないです。総合計画は本来、復興に関する内容までは含みませんが、今回「創造的復興」とあり、「創造的復興」とはまちづくりであり、まちづくりは総合計画に包含されます。ただし、復旧に係る側面は総合計画にはあまり入ってこないです。

【F委員】分かりました。

【事務局（能登町）】多岐にわたってお力添えいただき感謝いたします。引き続き、ご協力をお願いいたします。

【梅会長】基本構想と基本計画については、委員の皆さんから既に鋭いご質問を多数いただき、議論も深まりました。まさに諮問にふさわしい意見交換になったと感じています。

それでは、議題3「能登町第三次総合計画策定方針について」は以上とさせていただきます。事務局としても、この段階で締めて差し支えないでしょうか。

【事務局（能登町）】異論ありません。

【梅会長】それでは、我々がこれから取り組むべき課題についての議論は以上といたします。

【梅会長】続いて、議題4「審議会の今後の進め方」について、事務局よりご説明をお願いします。

事務局（能登町）より資料3「総合計画審議会の開催予定及び進め方」を説明する

【梅会長】これからの開催予定について、本年度の流れや会議の進め方として事務局から説明がありました。実際の議論を進めながら整理されていく部分もあると思いますが、説明に関して質問や確認事項があればお願いします。

それでは、この議題については以上といたします。

(4) その他

i 次回の予定

【事務局（能登町）】次回の審議会の開催は、先ほどお伝えしたとおり9月15日前後を予定しています。正式な開催通知は後日改めてご案内いたします。本日の会議資料については、後日町のホームページにも掲載する予定であります。事務局からは以上でございます。

【梅会長】本日の審議を踏まえて、疑問やご意見があれば、事務局にお寄せいただければと思います。これから約1年間にわたる取り組みとなります。委員の皆様には、引き続きご協力をお願い申し上げます。それでは、本日の会議はこれにて終了といたします。

以上